

## チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞とは

<https://www.jwliccja.org/>

チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞が生まれたきっかけは、2013年に、当時のオバマ大統領の発案で、社会貢献活動に尽力している市民に贈る“Champions of Change”賞がボストン在住の日本女性、厚子・東光・フィッシュさんに贈られたことにさかのぼります。

厚子・東光・フィッシュさんは、長年、日本の女性をアメリカに招いてリーダーシップのトレーニングや、東日本大震災の被災地支援活動に従事してきました。表彰されたのは全く違う分野の8人で、そのうちの一人に選ばれた栄誉を受けたフィッシュさんは、感激の中でオバマさんほどのことはできなくても、同じように日本で地域社会に根ざし、頑張っている日本女性の活動に光を当てることはできないかと考えました。こうして受賞から4年の準備期間を経て、本賞が設立されました。

日本においても、超高齢社会、大災害、子どもの貧困、地域社会の疲弊…等、様々な社会問題に直面した時に、勇気をもって自ら行動を起こし、地道に活動を続け、地域社会の課題解決や新たなシステムの構築に取り組んできた女性たちがいます。

この賞は、そんな女性リーダーたちの活動に光を当て、賞を贈ることで日本女性のロールモデルを示すことを願って生まれました。受賞者の皆さんの想いやアイデアを、この賞を通じて多くの人たちと広く共有することで、他の女性にも「私もできることをやってみよう」という変化の種が蒔かれ、芽吹くかもしれません。

チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞は、よりよい社会をみんなで作っていくための社会貢献活動の意義と喜びを広めていきます。

## 第3回チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞 選考委員会

## ○選考委員長

厚子・東光・フィッシュ氏（フィッシュ・ファミリー財団共同創設者・理事）

## ○選考委員（五十音順）

鶴尾 雅隆氏（認定特定非営利活動法人日本ファンデレイジング協会 代表理事）

ダニエル・ペレル氏（ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク社長）

山田 泰久氏（特定非営利活動法人 CANPANセンター 代表理事）

龍治 玲奈氏（日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 社会貢献担当部長）

## 主催団体のご紹介

フィッシュ・ファミリー財団 <http://jwlii.org/>

FISH FAMILY FOUNDATION

フィッシュ・ファミリー財団は、社会貢献を目的に1999年に米国マサチューセッツ州ボストン市でラリー・フィッシュ、厚子・東光・フィッシュ夫妻によって設立されました。主に、ボストン近郊の低所得層の生活の安定化及び、次世代の人材教育、特に心身ともに助けが必要な若者の支援に力を注ぎ、また同時に、移民の支援活動にも活発に取り組んでいます。2006年からは、JWLI (Japanese Women's Leadership Initiative) を開始しました。JWLIは、2年間の日本女性のリーダーシップ育成・支援を目的とするもので、参加者であるフェローたちは、ボストンに4週間滞在し、ボストンで成功している複数の非営利団体の訪問等を通して、ソーシャルセクターの経営や運営の最新事例を学びます。厚子・東光・フィッシュは、2012年に日米間の相互理解の促進への貢献により外務大臣表彰を、2013年には米国ホワイトハウスより“Champions of Change”賞を、2018年秋の叙勲において旭日小綬章を受賞しました。

公益財団法人パブリックリソース財団 <http://www.public.or.jp/>



2000年に非営利のシンクタンク、非営利活動法人パブリックリソースセンターとして発足し、NPO など非営利事業体のマネジメント強化、SRI（社会的責任投資）にかかる企業の社会性評価やCSRの推進支援、そしてオンライン寄付をはじめとする寄付推進事業などを展開してきました。2013年1月、これらの成果と蓄積を踏まえ、「誰かの力になりたい」という人びとの志を寄付で実現するために、個人や企業の資金力を社会的事業への投資につなぐ寄付推進の専門組織「公益財団法人パブリックリソース財団」として新たにスタートしました。「意志ある寄付で社会を変える」ことをミッションに、テーマ基金、オリジナル基金、遺贈など様々な寄付の方法をご提供し、人生を豊かにする寄付、未来を切り拓く寄付の仕組みづくりに取り組んでいます。また、NPO向けの研修やコンサルティング、社会的事業体の寄付適格性評価、助成事業の成果評価など、寄付による助成が最大の効果を生むための支援を行っています。

## 本賞に関するお問合せ先

## 公益財団法人パブリックリソース財団

〒104-0043 東京都中央区湊2丁目16-25 ライオンズマンション鉄砲洲第3 202号

Phone : 03-5540-6256 Fax : 03-5540-1030 E-mail : champion@public.or.jp



JWLI | CCJA  
Champion of Change  
Japan Award

第3回  
チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞  
～女性の力で誰もが安心して暮らせる豊かな社会を～

Award Ceremony

December. 9. 2019.

■主 催：フィッシュ・ファミリー財団 / 公益財団法人パブリックリソース財団  
■協 賛：Tiffany & Co. / Dow Chemical Japan  
■協 力：株式会社 内田洋行 / Japanese Women's Leadership Initiative (JWLI)

FISH FAMILY FOUNDATION



TIFFANY &amp; Co.





## Champion of Change Japan Award 2019

## 2019 Champions

2019年度入賞者のご紹介  
(五十音順)

石川 えり (いしかわ えり) さん 東京都  
認定NPO法人難民支援協会 代表理事

難民が安心して暮らせ、ともに生きられる社会の実現を目指す

1994年のルワンダ内戦を機に難民問題への関心を深め、大学在学中に難民支援協会の立ち上げに参加。来日直後から自立に至るまで難民一人ひとりの道に寄り添ういっぽうで、難民を受け入れられる社会を目指し、個人や企業、政府等への働きかけを行っています。2018年に難民認定されたのはわずか42人という、難民の受け入れに多くの課題を抱える日本で、今年設立 20 周年の協会は 6,000 人を超える難民を支援してきました。

認定NPO法人難民支援協会の活動はこちら▶



2019年6月～7月に『他薦のみ』による公募を行い、全国127件の応募から、地域の社会変革に地道に取り組んできた6名の女性リーダーが入賞されました。

藤原 久美子 (ふじわら くみこ) さん 東京都・兵庫県  
DPI女性障害者ネットワーク 代表

「障害」と「女性」という複合差別の解消に取り組む続ける

病気の合併症により30代で視覚障害者となった藤原さんは、妊娠した際に医者と親族から「障害児が生まれるリスクが高い」「障害があつて子どもを育てられない」と中絶を勧められた経験があります。後にこれが複合差別——障害者であり女性であることで、社会で直面する複合的な困難であると気付いてからは、他の障害当事者とともに優生保護法問題の解決や障害のある女性の自立促進、エンパワメントを目指し、国内外への働きかけを続けています。

DPI女性障害者ネットワークの活動はこちら▶



森 祐美子 (もり ゆみこ) さん 神奈川県  
認定NPO法人こまちぶらす 理事長

カフェから子育て中の母親のエンパワメントをし、  
埋もれてきた言葉にならない課題をまちの力で解決する

トヨタ自動車株式会社にて海外営業等を経て現職。出産直後に感じた孤独な育児をなくしたいとの思いを原点に、2012年にママ友数人で「こまちぶらす」を設立。横浜市戸塚区の商店会の一角で運営しているこまちカフェは「まちの担い手」がいつの間にか生まれる居場所として各地で参考にされています。また、まちの中の埋もれている課題を拾い、「おむつ自販機」など地域住民や企業と共に解決策を考え、共に形にし、広げています。

認定NPO法人こまちぶらすの活動はこちら▶



高橋 由佳 (たかはし ゆか) さん 宮城県  
認定NPO法人Switch 理事長

困難を抱える若者一人ひとりに寄り添い、「学ぶ」「働く」を支える

こころの不調などから不安や悩みを抱え、なかなか一歩が踏み出せず「学ぶこと」や「働くこと」をあきらめ、社会から孤立している若者は少なくありません。Switchは仙台と石巻を拠点に、障害者の就労支援や困難を抱える高校生・大学生など10～30代の方の復学・就労のサポートを行っています。幅広いステークホルダーの力を借りた伴走型の支援が特徴で、地元企業と連携した就労サポートや、農業・漁業を通じた中間的就労なども展開しています。

認定NPO法人Switchの活動はこちら▶



山里 世紀子 (やまざと せきこ) さん 沖縄県  
一般社団法人サポートセンターHOPE 代表理事

石垣島の子どもや若者が安心して過ごせる居場所を

離婚をきっかけに二人の子どもと移り住んだ石垣島で、沖縄県の配偶者暴力相談支援センターの相談員となった山里さんは、弱者となりがちな子どもと母親の支援の必要性を感じ、すぐに有志で子育て支援NPOを立ち上げました。さらに署名を集めて市内にファミリーサポートセンターと児童館を開設。共働きやひとり親世帯が多い中、施設運営を通して子どもたちの困難な状況をとらえ、子ども若者支援や学習支援、フードバンクなど幅の広い活動に乗り出しています。

一般社団法人サポートセンターHOPEの活動はこちら▶

